

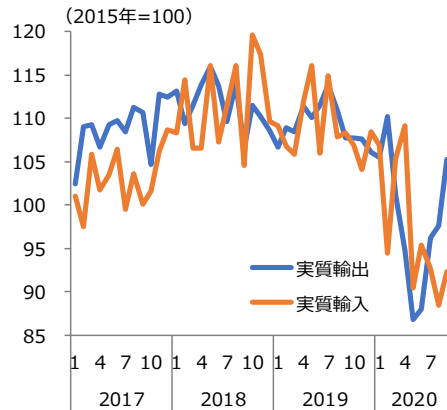
日本

貿易統計 (2020年9月)

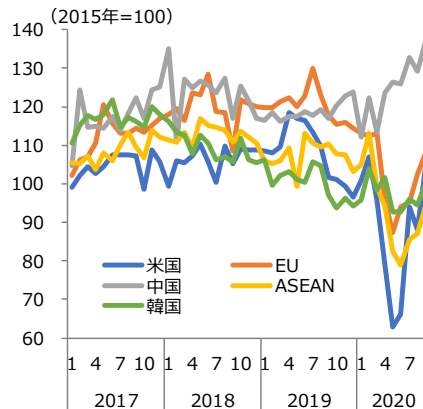
輸出は米国向け中心に増加、コロナ前の水準近くまで回復

政策・経済センター
綿谷謙吾
03-6858-2717

1 実質輸出入

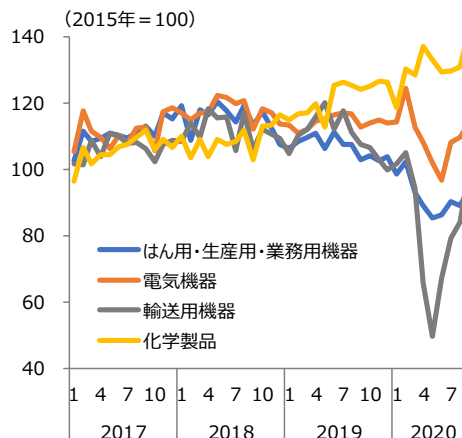


2 実質輸出：国別

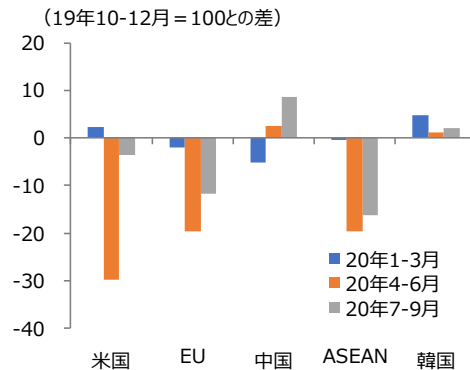


注：当社による季節調整値。20年1月以前のEUの値は、EUから英国を除いた値。
出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

3 実質輸出：品目別



4 実質輸出入のコロナ前との比較



注：当社による季節調整値。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

注：四半期。19年10-12月=100との比較。

出所：財務省「貿易統計」、日本銀行「企業物価指数」より三菱総合研究所作成

評価ポイント

今回の結果

- 20年9月の実質輸出（当社による季節調整値）は、前月比+7.9%、実質輸入は、同+4.4%（図1）。貿易収支（季節調整値）は、+4,758億円。輸出は海外経済活動の再開により、5月を底に持ち直している。
- 実質輸出（当社による季節調整値）を国・地域別で見ると、幅広い国・地域で増加した。米国向けは輸送用機器等を中心に前月比+18.0%と増加し、コロナ前の水準に戻りつつある（図2）。中国向けは、半導体製造装置の駆け込み等から、同+5.7%と増加基調を維持し、他の国・地域が回復途上にある中、コロナ前の水準を上回っている。
- 品目別では、幅広い財が増加、特に輸送用機器は前月比+17.5%と4カ月連続の増加（図表3）。輸送用機器は海外需要縮小や生産停滞で、コロナ前（19年12月）の8割程度の水準まで落ち込んだが、コロナ前の水準まで持ち直しつつある。
- 四半期では、20年7-9月期の実質輸出は前期比+10.9%の増加。中国向け輸出に加え、経済活動再開で米欧向けの輸出が増加した。
- コロナ前（19年10-12月）と比較した各国の実質輸出は、経済活動の再開を受け20年4-6月期と比較し、減少幅は縮小。ただし、中国と韓国を除きコロナ前の水準を回復しておらず、EU・ASEANはコロナ前の水準を1割以上、下回っている（図表4）。

基調判断と今後の流れ

- 輸出は、国内外の経済活動再開により持ち直しつつある。
- 先行きは、緩やかな回復を予想する。各国の経済活動は20年4月・5月をボトムに再開しており、海外需要の回復に合わせ輸出はコロナ前の水準まで持ち直しつつある。ただし、今後は回復スピードが鈍化するとみる。各国で感染は依然として拡大しており、欧州等では地域や業種を限定した外出規制等が再強化されている。7-9月期は各国の経済活動再開によるペントアップ需要等の一時的要因により輸出は増加したが、海外需要のコロナ前の水準への回復には時間を要する。
- 下振れリスク要因は、国内外での感染急拡大や重症者急増による、防疫措置の一段の厳格化だ。このリスクが顕在化した場合、海外需要の縮小、国内外の生産・物流の停滞により、輸出は下振れるだろう。